ASTE 自動ログ　ユーザマニュアル

(1) 実行コマンド（引数なし）

```
% ${COSMOS3}/aste/bin/alco    (Auto Log Current Observation)          ※同サイト内での複数起動「不可」
% ${COSMOS3}/aste/bin/alcp    (Auto Log Current Pointing)             ※同サイト内での複数起動「不可」
% ${COSMOS3}/aste/bin/also    (Auto Log Search log of Observation)    ※複数起動「可」
% ${COSMOS3}/aste/bin/alsp    (Auto Log Search log of Pointing)       ※複数起動「可」
```

(2) ログ格納場所

${COSMOS3}/aste/autolog/data/* ： システム用データ
${COSMOS3}/aste/autolog/*　　： ユーザ用データ（alco，alcp 画面の「CHANG OBS」ボタンを押すと、日付－時刻－GROUP－PROJECT ファイルを生成）

なお、ASTE サイトの ${COSMOS3}/aste/autolog/* には全観測の「日付－時刻－GROUP－PROJECT」データが置かれていますが
ユーザ側で、対象データを抽出し、１つのファイルに連結後、そのデータだけを参照及び検索する事ができます。
方法は以下の通りです。（検索用コマンドの引数にファイル名を指定して下さい）

```
% ${COSMOS3}/aste/bin/also  連結ファイル名
% ${COSMOS3}/aste/bin/alsp  連結ファイル名
```

＜注意＞

- ファイル連結の際、日付は必ず「昇順」にして下さい。（ファイル名順に連結して下さい）
- ASTE サイトとリモートサイトの観測ログデータは、指示書の有無やデータ巡回による遅延（１秒程度の時刻差）により完全一致はしません。

(3) 制御権

Manager GUI の制御権に従います、制御権がないリモートサイトでは現在の観測ログ（alco，alcp）は参照できません。（ASTE サイトでは参照可能）

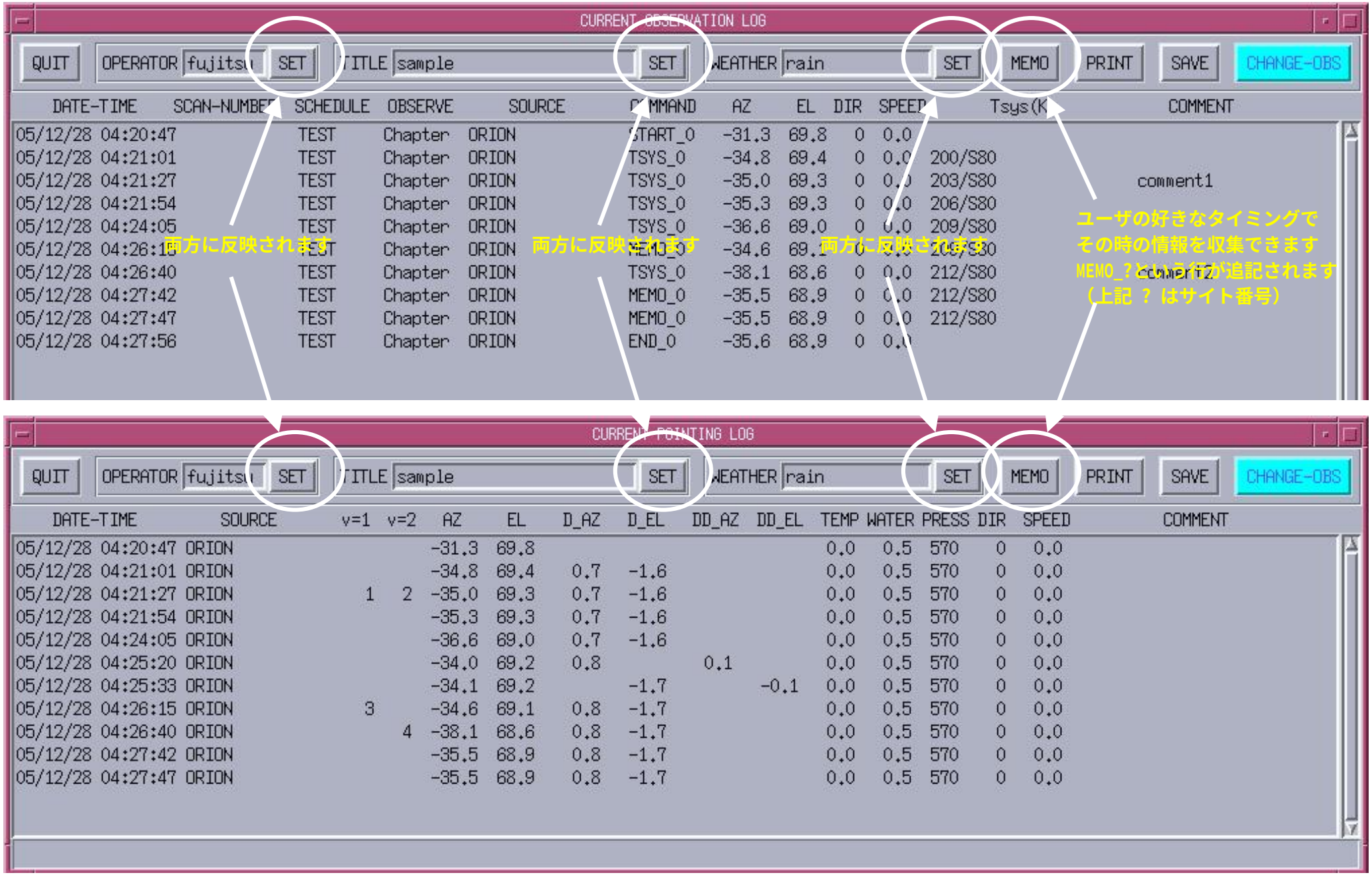
(4) リモートサイトでの環境定義

リモートサイトで（1）の実行コマンドを実行する際、以下の３つの環境変数を定義しておく必要があります。

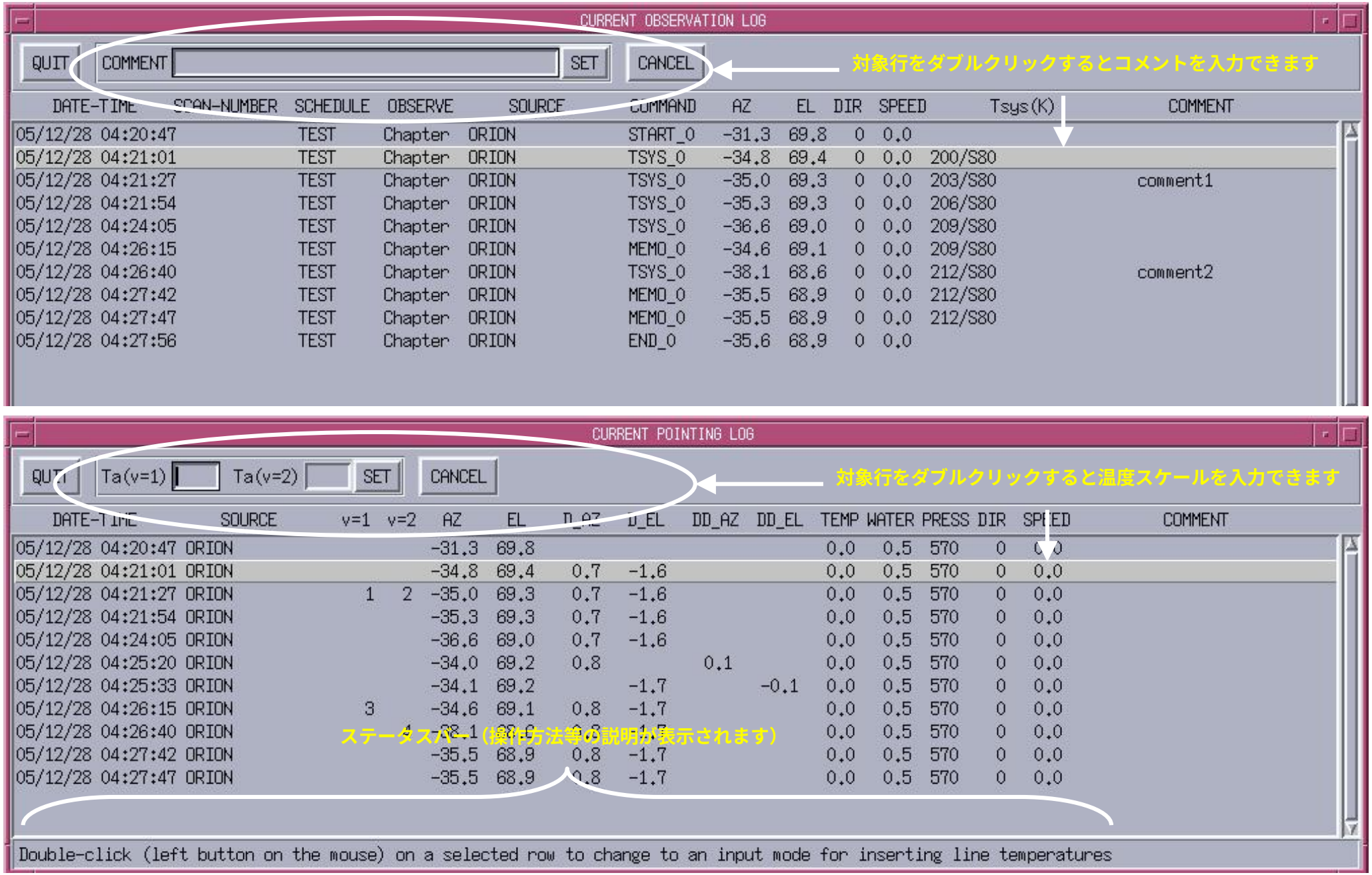
a. ${COSMOS3}
b. ${OWN_SITE}
c. ${INFO_SERVER_HOST}

次頁に画面例と簡単な操作方法を記します（45m の仕様が基本です、また画面下のステータスバーに説明が表示されますのでご活用下さい）

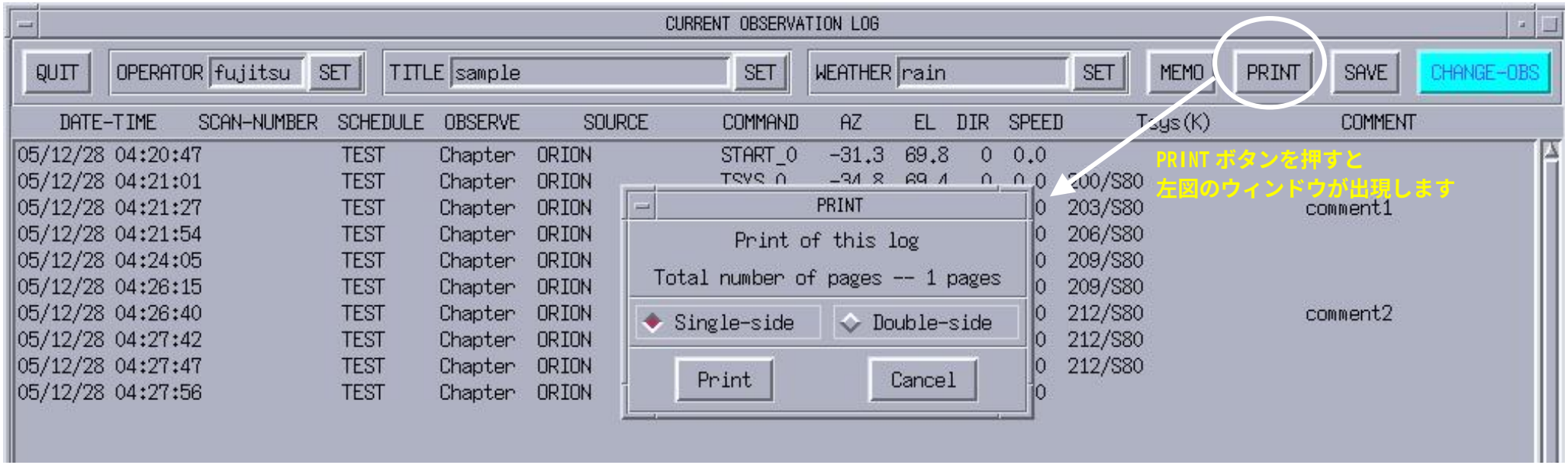
例１）Auto-Log Current Observation & Auto-Log Current Pointing（ポインティング観測が終わった状態）

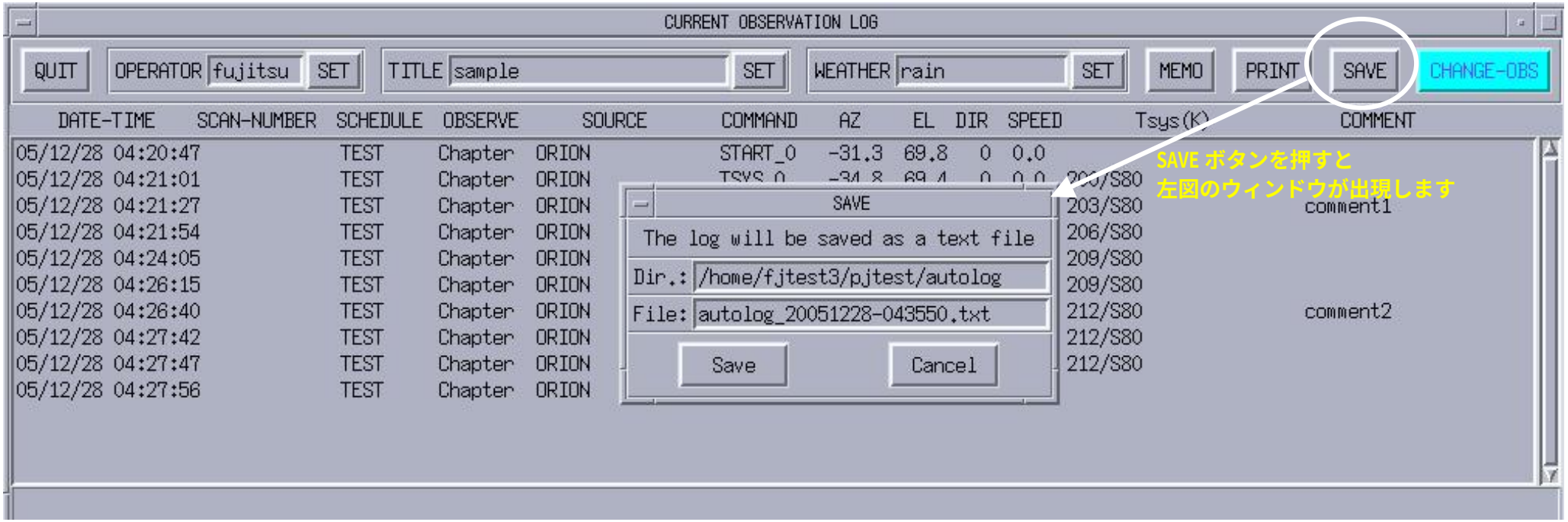


例２）Auto-Log Current Observation & Auto-Log Current Pointing（ポインティング観測が終わった状態）

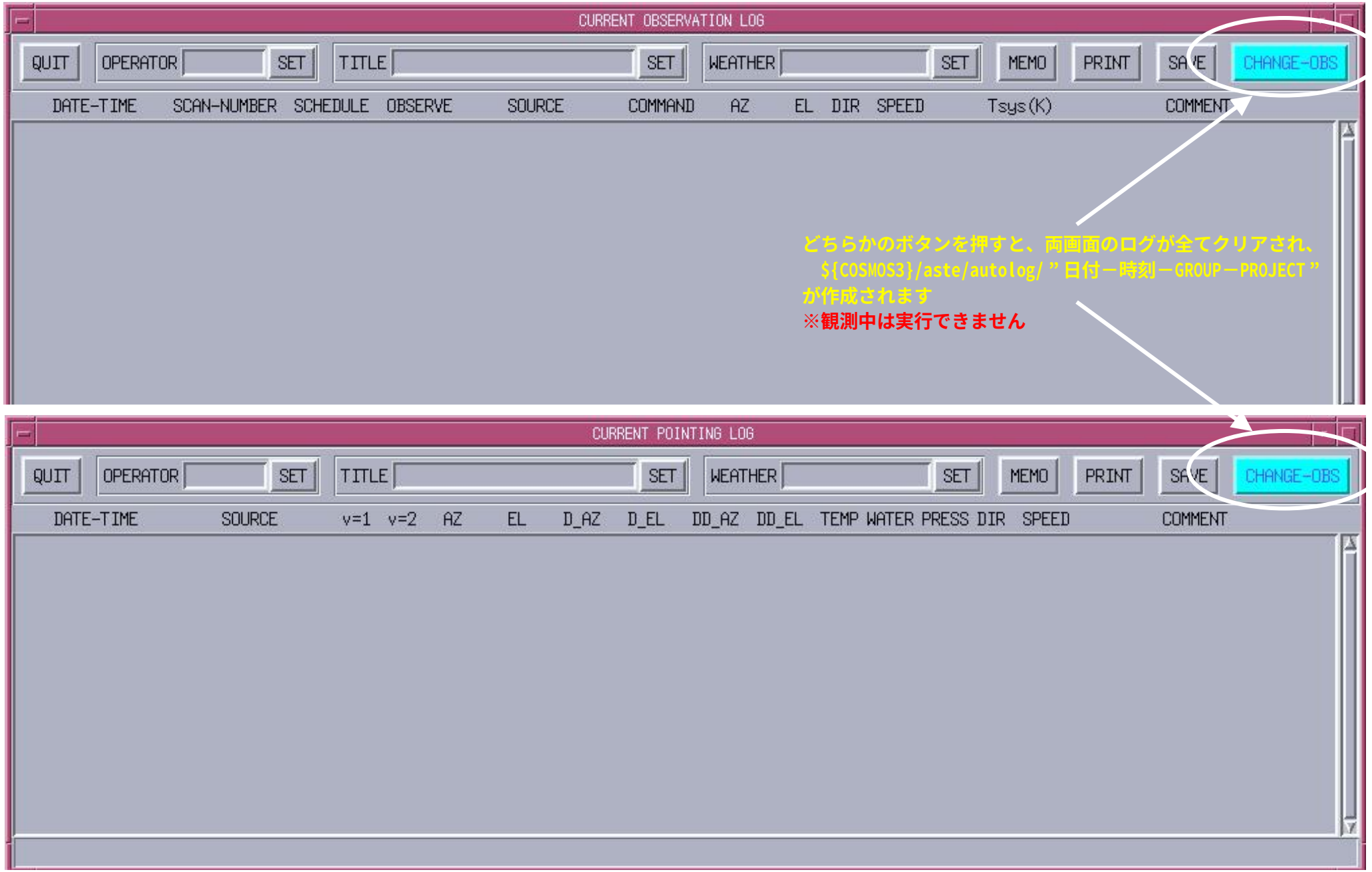


例３）Auto-Log Current Observation & Auto-Log Current Pointing（ポインティング観測が終わった状態）

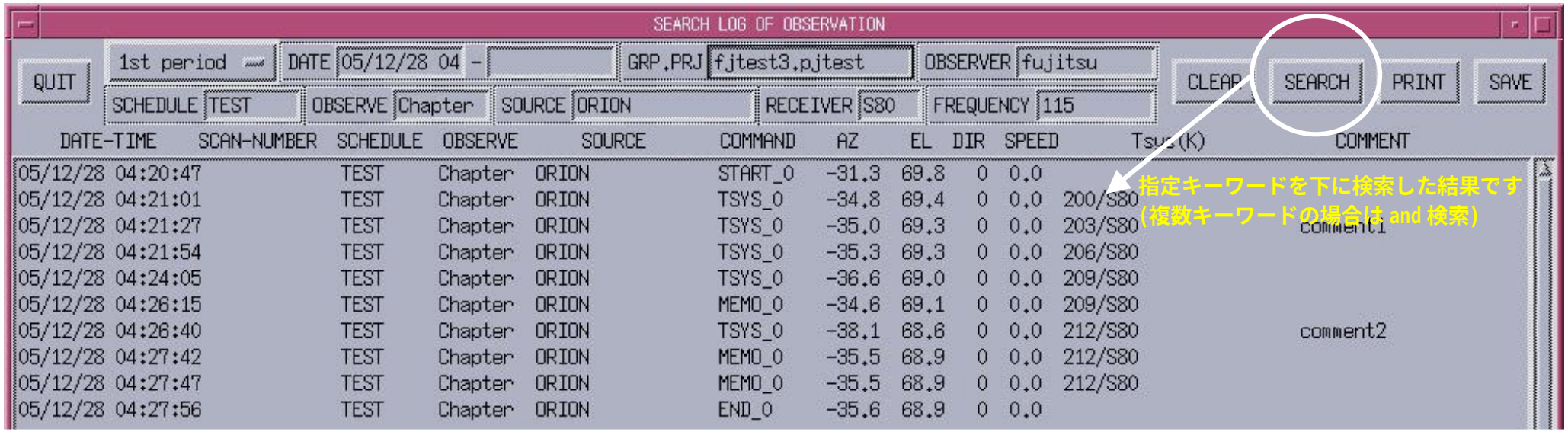


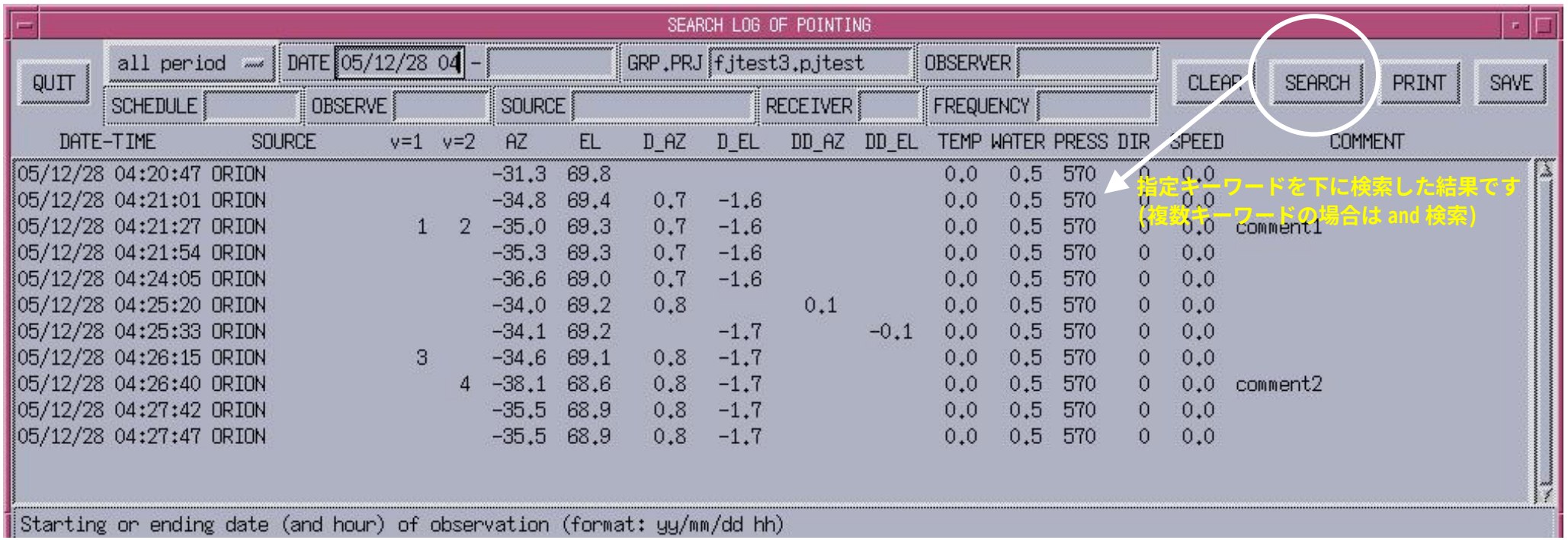


例４）Auto-Log Current Observation & Auto-Log Current Pointing（CHANGE-OBS ボタンを押下後）



例５）Auto-Log Search log of Observation & Auto-Log Search log of Pointing





例６）Auto-Log Search log of Observation & Auto-Log Search log of Pointing

